



甲南大学 社会連携機構 地域連携センター  
学生コーディネーター「なんティア」

2025年度活動報告書







## 目次

1. 地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」2025 年度の活動概要	2
2. 全体的な取り組み	3
(1) 研修・審査会・成果報告会・ボランティアサーティフィケート	3
(2) コーディネーション活動	4
(3) 阪神・淡路大震災ボランティア活動調査プロジェクト	6
(4) 渉外活動	6
(5) 広報活動	8
3. 各チームの取り組み	9
(1) コーディネーションチーム	9
(2) 広報チーム	11
(3) 企画チーム	13
4. 活動を振り返って	15
(1) 年間スケジュール	15
(2) 今年度の評価(振り返り)	16
(3) メンバーのコメント	17
(4) 2025 年度メンバー一覧	19
(5) 教員のコメント	20
<資料編>	21
1. 阪神・淡路大震災ボランティア活動調査プロジェクト(概要)	21
2. 「甲南大学のボランティア活動についての意識、および地域連携センターの認知度調査」結果 (一部抜粋)	23
(1) 調査の目的	23
(2) 調査対象・調査方法	23
(3) 調査の結果	24
1) ボランティア活動の経験や関心の有無	24
2) ボランティア活動の参加経験の有無別における活動への魅力の感じ方	24
3) 甲南大学地域連携センターの認知度	25
4) 甲南大学地域連携センターを知った時期	26
5) なんティアの認知度	26
3. これまでの歩み	27

## 1. 地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」2025 年度の活動概要



図 1-1 2025 年度のメンバー(2025 年 4 月 30 日撮影)

「なんティア」とは、甲南大学社会連携機構地域連携センター（以下、KOREC:コレック）の学生コーディネーターの団体です。なんティアは、KOREC の教職員と協力し、ボランティア活動において学生と地域団体をつなぐことを目的として様々な活動を行っています【図 1-1】。

2025 年度は、「ボランティア活動の魅力を伝え、参加につなげる!」、「甲南大学内外での露出を増やす!」、「チームを超えた交流を増やす!」の 3 つを目標としました。そして、発足から 5 年目という 1 つの節目の年となった今年度も、なんティアでは様々な活動に取り組みました。まず、阪神・淡路大震災から 30 年という節目の年であることもふまえて、「阪神・淡路大震災ボランティア活動調査プロジェクト」を新たに取り組みました。これは、甲南大学で学ぶボランティアに取り組む者として、何かできないかという思いから始めたプロジェクトです。今回私たちは文献調査や人と防災未来センターへの訪問を通して震災への理解を深めるとともに、当時のボランティア経験者へのインタビュー調査を実施して今後の防災活動の課題を検討しました。ボランティア活動という観点から震災を知ることで、これまでとこれからの各自の経験や活動、なんティアとしての活動について全員で考える機会となりました。そのほか例年通り、「学生ピア相談活動」、「CHIIKI×GAKUSEI マッチングプロジェクト」などのイベント運営や各チームの取り組みを通して、甲南大生のボランティア活動のきっかけを提供できるように務めました。

また、今年度も「コーディネーションチーム」、「広報チーム」、「企画チーム」の 3 つのチームに分かれ、それぞれが企画に対して熱意とチャレンジ精神を持って取り組みました。コーディネーションチームは、新たに岡本地域周辺の清掃活動に取り組みました。広報チームは、認知度アンケート調査を実施して、これまでで最も多い回答数を得ることができました。最後に企画チームは、新たに防災ボランティア活動のプログラムを開発しました。ぜひ、報告書の各チームのページをご一読ください。

地域連携センター学生コーディネーター 副代表 御手洗 由璃菜(法学部 3 年生)

## 2. 全体的な取り組み

### (1)研修・審査会・成果報告会・ボランティアサーティフィケート

#### ①春の研修

◎目的:今年度のなんティア全体と各自の活動目標をそれぞれ明確にする。

・場所:いずれも 2-41 教室(岡本キャンパス)

・概要:[1回目]日時:2025年4月9日(水)16:20~17:50

参加者数:15名、内容:「目標・評価基準決め」

[2回目]日時:同年4月16日(水)16:20~17:50

参加者数:13名、内容:「育成プランの検討」

#### ②新メンバー向け基礎研修

◎目的:新メンバーがボランティア活動や学生コーディネーター等についての理解を深め、今後の活動に生かす。

・場所:いずれも 2-63 教室(岡本キャンパス)

・概要:[1回目]

日時:2025年5月7日(水)16:20~17:50

参加者数:2名、講師:阪上、坂本(いずれも法学部3年生)

内容:「ボランティア、地域活動とは何か」、

「《演習》ボランティアを探そう」

[2回目]日時:同年5月14日(水)16:20~17:50

参加者数:4名、講師:橋本、御手洗(いずれも法学部3年生)、野田(経済学部2年生)

内容:「ボランティアコーディネーションとは何か」、「《演習》模擬コーディネーション」【図 2-1】

[3回目]日時:同年5月21日(水)16:20~17:50

参加者数:3名、講師:岡野、小林

内容:「ITリテラシーとは何か」、「《演習》実際にメールを送ってみよう」



【図 2-1】基礎研修  
(2025年5月14日撮影)

#### ③審査会(企画提案)

◎目的:今年度の企画のプレゼンテーションを行い、地域連携センターの教職員からフィードバックを受けて内容をブラッシュアップする。

・日時:2025年5月28日(水)16:20~17:50

・場所:2-41 教室(岡本キャンパス)

・参加者数:22名、教職員4名

・内容:なんティア全体の年度目標及び各チームによる今年度の企画についてのプレゼンテーション

・講評(敬称略):学長補佐/社会連携機構長 阿部 真大(文学部社会学科 教授)

社会連携機構事務室 課長 松下 賢一ほか

#### ④成果報告会及び交代式

今年度の成果をなんティア内外に向けて報告した【図 2-2】。

- ・日時:2025年12月17日(水)16:30~17:40
- ・場所:iCommons 2階 L4
- ・参加者数:22名、教職員4名、一般参加者数:3名
- ・内容:全体での取り組みと各チームの成果報告、交代式
- ・講評(敬称略):

学長補佐/社会連携機構長 阿部 真大(文学部社会学科教授)、社会連携機構事務室 課長 松下 賢一ほか



【図 2-2】成果報告会  
(2025年12月17日撮影)

#### ⑤ボランティアサーティフィケートの取得

2025年度もなんティアメンバー各自がボランティア活動に取り組み、複数名が甲南大学独自の評価制度である「ボランティアサーティフィケート」を取得した。(担当:御手洗)

◆ボランティアサーティフィケート累積取得者(下線は、本年度取得者)

〈1級取得者〉なし

〈2級取得者〉橋本育明、黒田千冬、森川遥菜、上間拓斗、小林英誠、坂本蒼依

〈3級取得者〉中川恭佑、飯島真優子、御手洗由璃菜、大橋夏芽、加納李稔、高原優梨、  
中川あかり、野田彩菜



### (2)コーディネーション活動

#### 1)CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)マッチングプロジェクト 2025

NPOをお招きして、甲南大生との出会いの場をファシリテーターとしてサポートした【図 2-3】。

- ・日時:2025年6月21日(土)10:00~12:00
- ・場所:5号館3階サイバーライブラリー「共同学修エリア」
- ・参加者数:51名

(内訳)・地域団体 15団体 21名

・学生コーディネーター2年生以上 12名

・一般学生 18名(うち、なんティア1年生 8名)



【図 2-3】マッチングプロジェクト  
(2025年6月21日撮影)

本イベントは、普段接点の少ない地域団体と学生が交流し、お互いを知り、活動の場を広げることを目的として実施した。当日は、地域団体が活動内容を紹介し、学生と約15分間のディスカッションを計5セッション実施した。各テーブルでは「なんティア」のメンバーがファシリテーターとして、円滑な進行や参加者の意見を引き出す役割を担った。今年度から新たに配布したメモシートにより、学生が積極的にメモを取り、疑問点をその場で質問する姿が多く見られた。

地域団体からは、「学生が求めている情報を事前に知りたかった」との意見が寄せられた。また、学生の質問が重複した際に、ファシリテーターとして十分に話題を広げられなかった。板書の活用や次の話題への自然な誘導などファシリテーション力を高める必要がある。(担当:高原)

## 2)学生ピア相談活動

学生コーディネーター（以下「学生 Co」）が、平日の昼休みや4限の時間に、学生という同じ立場(peer, ピア)であることを生かしてボランティアの相談に応じ、甲南大生のボランティアや地域活動への参加の促進をめざす。

### A.学生ピア相談活動【図 2-4】

- ・日時：2025年4～7、10～12月
  - ・昼休み（12:20-12:50）
  - ・4限（14:40-16:10）
- ・場所：12号館1階地域連携センター
- ・実施回数：105回実施（前年度比27回増）
- ・学生 Co 参加人数：のべ202人（同85人増）
- ・学生対応者数：24人（同7人増）（2025年12月16日現在）
- ・実施日を案内するカレンダーを作製した【図 2-5】。

#### 【評価】

- ・実施回数や学生対応者数が昨年度より増加したことで、学生 Co 全体の学生ピア相談の経験値を増やすことにつながった。
- ・広報回数が少なかった。

#### 【今後の課題】

- ・後期の対応が2件であったことから、後期の学生ピア相談活動の強化を検討する。
- ・ピア相談カレンダーの作成に時間がかかっていた為、カレンダーのフォーマットを作成しておき、記載内容などをまとめマニュアル化する。



【図 2-4】学生ピア相談活動  
（2024年11月20日撮影）



【図 2-5】ピア相談カレンダー

### B.ボランティア情報展示相談会

- ・日時：【第1回】4月25日（金）10:40-16:10  
【第2回】7月3日（木）・4日（金）12:00-15:00
- ・場所：岡本キャンパス iCommons, Agora West
- ・参加者数：計88名（前年度比23人増）
- ・前年度より開催日頻度増やし、パネル位置の変更や机の上にチラシを配置するなど工夫した。【図 2-6】



【図 2-6】参加者の対応をする  
学生コーディネーター  
（2025年7月4日撮影）

#### 【評価】

- ・学生コーディネーターの対応について、「説明がわかりやすい」「気軽に声をかけてもらえて話しやすかった」などの前向きな意見が見られた。
- ・「ボランティアの種類は多いが、内容について説明しきれていなかった」との指摘もあるなど、コーディネーション力の不足がうかがわれた。

#### 【今後の課題】

- ・コーディネーション力を向上させる研修の実施。
- ・展示方法や荷物置き場を確保するなど、運営の改善を図る。

（担当：阪上）

### (3) 阪神・淡路大震災ボランティア活動調査プロジェクト

阪神・淡路大震災においてボランティア活動を経験した人や団体を対象にインタビュー調査を実施し、「阪神・淡路大震災 30 年記念シンポジウム」において報告した。

・調査期間:2024 年 11 月~2025 年 11 月

・調査者:岡村 こず恵(全学共通教育センター特任准教授)

地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」有志 22 名

・調査結果:本紙 22 ページに一部掲載

#### ① アンケート調査

・甲南大学の卒業生や甲南学園の学生・生徒の保護者を対象に、阪神・淡路大震災におけるボランティア活動体験についてアンケート調査を実施した。

・調査時期:2024 年 10 月 20 日~11 月 12 日(岡村先生実施)

#### ② フィールドワーク及び文献調査

・人と防災未来センターに訪問し、震災の概要について理解を深めた。

日程:2025 年 5 月 17 日、参加者 14 名

・関連図書や資料などを収集し、関連テーマについて各自レポートにまとめ、グループで共有し理解を深めた。

#### ③ インタビュー調査

・阪神・淡路大震災においてボランティア活動を経験した 6 名の個人、およびボランティアを受け入れた 2 団体の NPO を対象にインタビューを実施した【図 2-7】。

・調査時期:2025 年 8~9 月

#### ④ 成果報告:「阪神・淡路大震災 30 年記念シンポジウム “防災文化の形成における大学の役割”

—常二備へヨを継承するために」にて研究成果を報告した。

・日時:2025 年 11 月 29 日(土) 13:00~17:00 ・場所:甲南大学岡本キャンパス 511 教室  
テーマ「災害ボランティア活動の記憶に向き合うということ—阪神・淡路大震災 30 年を契機として」

(担当:橋本)



【図 2-7】インタビュー調査  
(2025 年 8 月 4 日撮影)

### (4) 渉外活動

#### 1) 学内交流\_KONAN Students Forum(KSF)

学内団体との連携と大学運営への参画を目的に、全 2 回の「KONAN Students Forum」に参加した。6 月は学生間交流と企画立案、12 月は大学執行部と中期計画「KONAN U. VISION 2030」について意見交換した。

日時:2025 年 6 月 29 日(日)13:00~16:30/12 月 14 日(日)13:00~16:30

会場:甲南大学 10-11 教室、10-12 教室/甲南大学 5-11 教室

参加者数:約 40 名(うち、なんティア 9 名)/約 30 名(うち、なんティア 3 名)

#### 【結果・評価】

- ・他団体との交流により活動課題を共有し、新たな接点を構築した。
- ・団体紹介を通じてボランティアへの関心を高める機会となった。

#### 【今後の課題】

- ・学内での交流や、なんティアの知名度向上への取り組みを検討する。（担当：坂本）

## 2)学外交流\_神戸学院大学視察

神戸学院大学ボランティア活動支援室の視察及び、学生スタッフ交流会を実施した【図 2-8】。

・日時：2025年9月27日(土)14:00～17:00

・場所：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

・参加者数：33名(甲南大生21名、教員1名  
/神戸学院大生10名、職員1名)

#### ・主な内容

- ボランティア活動支援室および、学内視察(30分)
- 各大学代表による活動紹介(30分)
- 両校の混合グループで意見交換(90分)
- 全体共有



【図 2-8】神戸学院大学にて学生スタッフとなんティアメンバーの集合写真  
(2025年9月27日撮影)

#### 【結果】

- ・両校の活動紹介を行い、活動の違いや活動における課題について意見交換を行った。
- ・広報物やボランティア活動の様子を掲示する広報面の取り組みなどの学びがあった。

#### 【評価】

視察を通して、ボランティアをより良く伝える工夫や取り組みについて学ぶことができた。視察後、なんティアに取り入れられる活動を話し合い、チームごとに検討することができた。

#### 【今後の課題】

視察後の検討の結果、写真を用いてなんティアの活動やボランティアの様子を広報すること(広報チーム)、期間を限定して学生ピア相談の開催場所などを工夫する取り組み(コーディネーションチーム)などを次年度に向けて検討している。  
(担当：野田)

## 3)その他の学外交流

「2024年度関西大学ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会及び他大学交流会」に参加した。活動報告会では他団体の活動内容を聞き、交流会ではテーマごとに話し合った。

日時：2025年3月1日(土)13:00～17:00 会場：関西大学千里山キャンパス

参加者数：約65名(うち、なんティア10名)

#### 【結果・評価】

- ・他団体の多様な活動を知り、自団体の位置づけや特色を見つめ直す機会となった。
- ・テーマトークでは他団体とボランティア観を共有でき、活動のモチベーション向上につながった。

#### 【今後の課題】

- ・今後も参加する機会があれば、活動報告会に登壇できるよう準備することを考える。(担当：山野)

## (5)広報活動

### 1)全体広報

【活動概要】ウェブサイトを中心に、広報活動に取り組んだ。

#### 1)活動全般について情報発信

◎掲載媒体:地域連携センターウェブサイト「活動報告」/甲南 Ch. (カテゴリ:「地域連携」)

<2025年>

- ・5月20日「なんティア5年目に突入! ~2025年度の活動が始まりました」(橋本育明)
- ・5月20日「ボランティアへの扉を開く ~ボランティア情報展示・相談会」(大橋夏芽)
- ・8月5日「地域と学生の架け橋に ~マッチングプロジェクト2025を開催しました」(高原優梨)
- ・10月30日「交流を経て新たな発見 ~神戸学院大学ボランティア活動支援室に視察に行きました!」(野田彩菜)

<2026年>

- ・2月16日「清掃活動をきっかけに、甲南大生にボランティアの魅力を伝える」(阪上優志)
- ・2月16日「甲南大生にボランティアを生かしたい -より多くの甲南大生に、学生ピア相談活動を利用してもらうために」(阪上優志)
- ・2月16日「地域連携センターおよびなんティアの認知度を調査するため、アンケート調査を行いました!」(水原歩夢)
- ・2月16日「『はじめてのボランティア活動をサポートします! ~ラ・フェス 2025 防災部ボランティア』を実施しました!」(竹村希美, 飯島真優子)
- ・2月16日「阪神・淡路大震災から30年、今伝えたいこと -災害ボランティア活動調査プロジェクト」(橋本育明)
- ・2月24日「2025年度の活動目標に対する評価と次年度に向けて」(御手洗由璃菜)

### 2)(参考)個人のボランティア活動報告

※個人のボランティア活動結果を地域連携センターのウェブサイトで発信した。

- ・2025年9月25日「農作業の魅力を再発見!」(中川恭佑)
- ・9月25日「『MOTOBON2025』でのボランティア活動報告」(飯島真優子)
- ・9月26日「未来をつくる子ども教室 特定非営利活動法人セブンスピリット主催「フィリピンの子どもたちのためのオーケストラプロジェクト」に参加しました!」(水原歩夢)
- ・9月26日「本山第一小学校で開催された MOTOBON 祭りにボランティアで行って来ました!」(中西珠希)
- ・9月29日「MOTOBON(本山盆祭り)」でのボランティア活動報告」(竹村希美)

(担当:黒田)

### 3. 各チームの取り組み

#### (1)コーディネーションチーム



【図 3-1】コーディネーションチームのメンバー  
(2025年11月26日撮影)

コーディネーションチームは、学生コーディネーターのコーディネーション力向上や、甲南大生のボランティア活動促進のための様々な企画に取り組むチームである。今年度のメンバーは、阪上優志、御手洗由璃菜、大橋夏芽、野田彩菜、今井修三、中川恭佑、中西珠希、酒井菜緒、藤本心菜の計10人である【図 3-1】。

①学生ピア相談活動の運営および「ボランティア情報展示・相談会」の実施(5頁を参照のこと)。

②【新規】ボランティア清掃活動の開催

・概要: ボランティア活動に関心のある未経験者の甲南大生を対象に甲南大学付近で清掃活動を行い、今後のボランティア活動参加につなげる。

・広報: ポスター、My KONAN、KOREC ホームページ、Instagram、iCommons 等で告知した【図 3-2】。

・場所: 甲南大学付近

・日時・参加者数・プログラム内容:  
【1回目】2025年11月4日(火)  
12:20-12:50(30分)

参加者数: 1名

プログラム内容: トングを用いて、予定の活動範囲を2班に分かれ清掃した。清掃終了後には、ゴミの分別も行った【図 3-3】。



【図 3-2】清掃活動ポスター



【図 3-3】清掃活動  
(2025年11月15日撮影)

【2回目】同年11月15日(土)10:00-12:00(2時間)

※参加者の了承を得た上で30分延長した

参加者数:7名

プログラム内容: 9:40~:参加者集合、オリエンテーション

10:00~:清掃活動

12:00~:ふりかえり

12:30~:終了

トングを用いて、予定の活動範囲を2班に分かれ清掃した。また、楽しんで参加してもらえるように、清掃範囲に文字の書かれたシャトルを参加者が見つける「文字探し」ゲーム、および清掃後の気持ちを表現してもらう「一掃一句」を実施した。これはボランティア活動に参加した気持ちを俳句にする試みである。グループで作品を見せ合い、感想の表出に役立てた【図3-4】。清掃終了後に、ゴミの分別をした。

#### 【評価と今後の課題】

##### ◎「なんティア清掃活動」

- ・参加者満足度:参加者の8割が満足と回答。おおむね好評を得た。文字探しゲームは参加者全員の一体感が生まれ、交流につながった。
- ・参加者数8人(目標10人)と目標は達成できなかった。告知期間が2週間しか確保できず、また事前準備に予定より時間がかかった。対外的な交渉の時間を十分に確保することや、なんティアの他チームや外部に具体的に進捗を共有する必要がある。
- ・2回目は、予定時間よりも約30分延長してしまった。原因は、清掃範囲が広すぎたことにある。範囲やタイムテーブルの見直しが必要である。



【図3-4】一掃一句を作成中  
(2025年11月15日撮影)

#### 【達成を目指すSDGs】

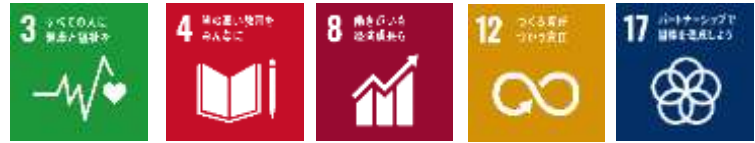
「4:質の高い教育をみんなに」、「11:住み続けられるまちづくりを」、

「15:陸の豊かさを守ろう」、「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

学生と学生Coが清掃活動を通じて、同じ目的を掲げて活動したことで場を整える大切さだけでなく、人との協力や小さな積み重ねの価値を実感した。この経験を今後の行動にも活かしていきたい。

(担当:阪上)

## (2) 広報チーム



【図 3-5】 広報チームのメンバー(2025年11月19日撮影)

### 【活動概要と成果】

今年度は、隔年に実施している認知度調査を中心に活動。メンバーは、坂本蒼依、今村七海、黒田千冬、高原優梨、玉岡穂ノ佳、水原歩夢、小川優、森川遥菜の計8名であった【図 3-5】。

### ①「2025年度甲南大学生のボランティア活動についての意識、および地域連携センター(KOREC)の認知度調査」(以下、認知度調査)

#### <目的>

甲南生のボランティア活動の参加状況や、地域連携センターおよび学生コーディネーターによる活動の認知度等に関する基礎データを収集し、今後の本学でのボランティア活動推進のための課題を明らかにする。

- ・回答数:1,160, 調査協力授業数:20
- ・調査期間:2025年9月22日~2025年10月13日
- ・調査結果:23頁に抜粋して掲載。

### ②なんティア広報

- ・ボランティア情報展示・相談会にて対面広報を実施した。

### ③Instagramの運営

- ・目標登録者600人、登録者数522人  
(2025年11月27日現在、前年比171人増)
- ・投稿回数:30回(目標45回)
- ・ストーリー投稿回数:78回【図 3-6】

### ④アイシティecoプロジェクト

- ・総回収量:25.15kg(目標:25kg)  
月平均の回収量:2.09kg(前年度比111%)【表 3-1】
- ・Instagramで回収の様子、My KONANでは回収の呼びかけを発信した【図 3-7】。



【図 3-6】ボランティア情報展示・相談会 ストーリー投稿 (2025年7月3日撮影)

【表 3-1】コンタクトレンズの空ケース回収量

	2025 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
回収量	25.15kg	22.63 kg	12.79 kg	15.5 kg
期間	12 か月 (2024 年 12 月 ~2025 年 11 月)	12 か月 (2023 年 12 月 ~2024 年 11 月)	10 か月 (2023 年 2 月~ 11 月)	14 か月 (2021 年 12 月~ 2023 年 1 月)
月平均	2.09kg (前年度比 111%)	1.88 kg (同 148%)	1.27 kg (同 115%)	1.1 kg

【評価と今後の課題】

①認知度調査

- ・教職員に多大なご協力を得られたことにより、アンケート回収率が大幅に増加し、調査の信頼性を高められた。
- ・メール送信時に宛名抜けなどの不備が発生した。
- ・分析に要する時間が予測できなかった。
  - ・メール送信時の手順やメール文案確認の徹底。
  - ・作業時間の目安をマニュアルに明記する。



【図 3-7】「アイシティ eco プロジェクト」空ケース回収 (2025年11月13日撮影)

②なんティア広報

- ・情報展示会などイベント時に Instagram 等による活動案内が十分にできていない。
  - ・活動を十分紹介できていない状況を改善するため、写真による活動紹介(ボードに活動風景の写真を貼付など)や、動画制作を検討する。
- ・広報物を制作後は、情報展示会などイベントや広報活動で積極的に使用する(作って終わりにするのではなく、広報活動まで実施する)。

③公式 Instagram の運営

- ・ストーリーを想定より多く発信することができた。
- ・投稿回数・フォロワー数の目標が達成できなかった。
  - ・ストーリーの投稿は、計画性をもって配信する。
  - ・目標を達成できるように、計画を守るための何らかの工夫をする。

④アイシティ eco プロジェクト

- ・回収量が前年度比 111%と増加した。4 年連続、増加を達成した。
- ・5 号館パンセの回収ボックスが「ほぼ満杯」または「あふれている」状態が発生した。
- ・月3回の見回り計画が実行できなかった。
  - ・回収頻度を減らすため、5 号館パンセの回収ボックスも大型に変更する。
  - ・見回りシフト表を作成し、負担を考慮した上で、見回り頻度を確保する。

【達成を目指す SDGs】

「3:すべての人に健康と福祉を」, 「4:質の高い教育をみんなに」, 「8:働きがいも経済成長も」, 「12:つくる責任、つかう責任」, 「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

今年度の活動で、ボランティア参加の促進やコンタクトレンズの空ケースの回収に取り組んだ。

(担当者:坂本)

### (3)企画チーム



【図 3-8】メンバー集合写真（2025 年 11 月 12 日撮影）

#### 【活動概要】

本年度企画チームでは、甲南大生を対象に、ボランティア活動への初参加の不安を取り除くことを目的としたボランティアプログラムを実施した。上間拓人、森川遥菜、弘中美緒、橋本育明、小林英誠、加納李穂、中川あかり、山野颯葵、飯島真優子、竹村希美の計 10 名である【図 3-8】。

本年度は、特定非営利活動法人プラス・アーツの全面協力のもと、防災訓練を行うボランティア活動に参加するボランティアプログラムを企画した。なんティアメンバーと一緒に活動に参加することで、ボランティアに参加する甲南大生が安心して活動できるプログラムを目指した。

・プログラム名：「はじめてのボランティア活動をサポートします！

～ラ・フェス 2025 防災部ボランティア募集！～

・広報：【新規】iCommons にて、公開プレゼンテーションを実施した。【図 3-9】

9 月 15 日、10 月 1 日

-10 月 6 日(月)：事前説明会、団体による中継説明会、防災工作体験【図 3-10】

-10 月 11 日(土)・12 日(日)：活動当日  
(各日 10:30-14:00、14:00-17:30) 【図 3-11】

-10 月 15 日(水)：振り返りの会【図 3-12】

・参加者数：

一般参加の甲南大生 7 名、なんティアメンバー 8 名、  
イベント来場者 約 1,000 名(10 月 11 日～13 日)

・活動内容：

来場者が防災体験プログラムを楽しく体験できるように、来場者や他のボランティア参加者と交流しながら運営のサポートを行う。



【図 3-9】公開プレゼン  
(2025 年 10 月 1 日撮影)



【図 3-10】事前説明会 防災工作  
(2025年10月6日撮影)



【図 3-11】イベント当日の様子  
(2025年10月11日撮影)

#### 【結果】

- ・企画設計段階で、メンバーの大半が事前に実施するボランティア活動に参加できた。
- ・事前説明会では、参加者と企画に関連する防災工作を行い、参加者との関係を築けた。
- ・活動当日は、甲南大生となんティア、他のボランティア活動参加者との交流がみられた。
- ・参加者の不安を取り除くため、積極的に学生コーディネーターから声を掛けた。
- ・振り返りの会は、参加者が意見を出しやすいように付箋に感想を書き、模造紙に張り出すなどの工夫をした。積極的な意見交換を促すことができた。

#### 【評価】 ※イベント終了後のアンケートより(回答数 5)

- ・はじめて公開プレゼンテーションに挑戦した。活動告知というよりは、なんティアの広報に貢献した。
- ・活動を通してボランティアに関する学びや活動継続のきっかけを提供できた。
- ・参加者アンケート結果から、参加者から高い満足度を得た(「満足」と回答 100%)。
- ・前年度と比較して、参加者数が増加した(前年度:4名→今年度:7名)
- ・昨年度の課題であった参加者属性の偏り、スケジュールの不備、なんティアのボランティア経験について改善できた。

#### 【課題】

- ・ニーズ調査の方法の妥当性を再考する。  
→シールアンケートによって、参加者ニーズには一定応えられた。しかし、なんティアが目指す「社会的ニーズに即したプログラム開発」については、課題を残した。
- ・事前打ち合わせで、互いのスケジュール確認を徹底する。
- ・広報手段について引き続き検討する。
- ・「事前説明会」および「振り返りの会」に参加者全員の参加を得られなかった。  
→活動当日と合わせて魅力を伝えられるよう、広報を再検討する。  
→活動と振り返りの会を同日開催にするなど日程の分散を防ぎ、参加者の負担を軽減する。
- ・ファシリテーションスキルが不足していた →スキル向上のため研修を実施する。



【図 3-12】ふりかえりの会  
(2025年10月15日撮影)

#### 【達成を目指す SDGs】

「4:質の高い教育をみんなに」、「11:住み続けられる街づくりを」、  
「17 パートナースhipで目標を達成しよう」

なんティアメンバーが、甲南大生のために企画したボランティアプログラムの実施により、ボランティア活動の参加のきっかけや、地域防災や地域コミュニティの社会課題に触れる機会を提供できた。

(担当者:加納)

## 4. 活動を振り返って

### (1)年間スケジュール

【表 4-1】年間スケジュール

日程	曜日	主な予定
04月09日	水	春の研修①「目標・評価基準決め」
04月16日	水	春の研修②「育成プランの検討」
04月23日	水	チーム活動の企画検討、新入生歓迎会準備
04月30日	水	オリエンテーション、新入生歓迎会
05月07日	水	基礎研修①「ボランティア、地域活動とは何か」「《演習》ボランティアを探そう」/チーム活動
05月14日	水	基礎研修②「ボランティアコーディネーションとは何か」「《演習》新メンバー模擬コーディネーション」/チーム活動、ピア相談イベントふり取り
05月17日	土	「人と防災未来センター」訪問
05月21日	水	基礎研修③「ITリテラシーとは何か」「《演習》実際にメールを送ってみよう」/審査会リハーサル
05月28日	水	審査会(企画提案)
06月04日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、チーム活動
06月11日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、ピア相談活動報告、チーム活動
06月18日	水	マッチングプロジェクトのリハーサル
06月21日	土	「CHIIKI×GAKUSEI マッチングプロジェクト」本番
06月25日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、チーム活動
06月29日	日	学内交流_第二回 KONAN Students Forum (KSF)への参加
07月02日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、チーム活動
07月09日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、マッチングプロジェクトのふり取り、ピア相談活動報告、チーム活動
07月16日	水	震災ボランティア調査プロジェクト
08月~09月	—	インタビュー実践、分析
09月24日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、他大学視察準備、ピア相談イベントの振り返り
09月27日	土	神戸学院大学ボランティア活動支援室視察
10月01日	水	震災ボランティア調査プロジェクト、チーム活動
10月08日	水	他大学視察の振り返り、チーム活動
10月15日	水	チーム活動報告(企画チーム)、チーム活動
10月22日	水	チーム活動
10月29日	水	チーム活動報告(広報チーム)、チーム活動
11月05日	水	チーム活動報告(コーディネーションチーム)、チーム活動
11月12日	水	CS神戸との意見交換、今年度の成果と次年度の課題の検討①
11月19日	水	育成計画の自己評価、チーム活動報告(コーディネーションチーム)、ピア相談活動報告、今年度の成果と次年度の課題の検討・共有②
11月26日	水	震災シンポジウム発表内容の共有、チーム活動
11月29日	土	震災シンポジウム
12月3日	水	新代表・副代表の発表、チーム活動
12月10日	水	成果報告会リハーサル、ピア相談活動報告
12月14日	日	学内交流_第三回 KONAN Students Forum (KSF)への参加
12月17日	水	成果報告会&交代式
01月07日	水	新体制の検討
01月14日	水	各チーム、担当者の引き継ぎ

## (2)今年度の評価(振り返り)

今年度は、すべての目標を達成することはできなかった【表 4-2】。その要因として、一部の目標設定が実態に即していなかった点が挙げられる。一方で、iCommons でのチラシ配布や「震災ボランティア調査プロジェクト(以下、災害ボランティア調査)」など、なんティアとして初めての試みに挑戦することができた。特に、メンバー全員で取り組んだ災害ボランティア調査は、メンバー間の交流を深める機会となった。しかし、活動量が増えたことで、メンバーの負担が増加し、目標設定の基準やメンバーの負担配分に関して今後の課題が残った【図 4-1・2】。

【表 4-2】 2025 年度の活動目標に対する結果

(◎…目標以上達成／○…目標達成／△…目標を一部達成／×…目標未達成)

目標①:「ボランティア活動の魅力を伝え、参加につなげる!」 ※1 認知度調査結果より

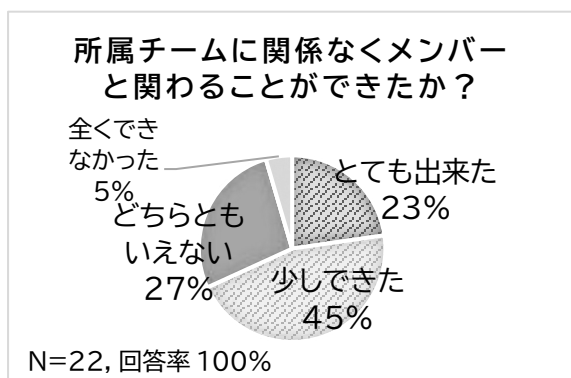
項目	目標	結果	達成状況
ボランティア活動の魅力(※1)	「活動経験者」50%以上	88.6%	◎
	「活動に関心がある未経験者」30%以上	86.9%	◎
ボランティア活動の経験や関心(※1)	「定期的・継続的な活動経験」10.9%	8.0%	×
	「単発な活動経験」29.7%	25.5%	×
	「関心はあるが参加したことはない」55.8%	41.6%	×

目標②:「甲南大学内外での露出を増やす!」

項目	目標	結果	達成状況
Instagram	フォロワー 600 人	552 人	×
広報活動(Instagram投稿数、チームでのチラシ配り)	147 回(前年度比×1.5 倍)	116 回	×
認知度(※1)	KOREC の認知度 37.3%	40.9%	◎
	なんティアの認知度 26.8%	45.3%	◎

目標③:「チームを超えた交流を増やす!」 ※2 なんティア内の自己評価アンケート結果より

項目	目標	結果	達成状況
メンバー同士の交流(※2)	所属チームに関係なくメンバーと関わることが「できた/少しでもできた」→80%以上	68%	×



【図 4-1】自己評価アンケート結果より

自由記述(※2)

【肯定的評価】

- ・「チームの活動や震災のインタビュー調査で他のチームの先輩と関わることが出来た」

【否定的評価】

- ・「スケジュール通り作業が進んでいないと、精神的にしんどいところもあった」
- ・「他チームの活動に参加できなかった」

【図 4-2】メンバーのコメント

目標設定が実態に即していなかったという反省から、年度の中旬に目標を一度見直す機会を設け、進捗や課題を確認する必要がある。また、メンバーの負担が重くなりすぎないように、タスク管理を徹底し、適切な役割分担を心がける必要がある。これらの取り組みを通して、チーム全体が無理なく継続的に活動できる体制を目指していきたい。(担当:橋本)

### (3)メンバーのコメント

【表 4-3】メンバーのコメント

<p>初めは、1～3年生をサポートする立場として、自身の立ち位置や関与度合いの見極めに悩んだ。それでも時期が経つごとに、質問・相談が増えたことが嬉しかった。4年間の経験を最も表現できた1年だと実感している。</p> <p style="text-align: right;">上間 拓人(企画チーム)</p>	<p>3年間の活動を通じて、資料作成や渉外、チーム活動など様々な場面におけるスキルを身に付けられたと感じる。今年はリーダーを務めたが、メンバーをまとめる難しさを学んだ。この経験を今後の人生に生かしていく。</p> <p style="text-align: right;">小林 英誠(企画チーム)</p>
<p>最後の1年は、定例会以外での活動でしか携わることができなかったが、1,2年生の時に培った知識やスキルは、この先の人生の支えになると感じている。</p> <p style="text-align: right;">岡野 将太(広報チーム)</p>	<p>3年間広報チームで活動し、その中で2年半ほどリーダーを務めたが、自分が苦手なことや得意とすることをよく理解できるきっかけとなったのは、このなんティアでの活動だと感じる。</p> <p style="text-align: right;">坂本 蒼依(広報チーム)</p>
<p>3年間なんティアで活動し、社会で必要とされるスキルや能力を身に付けることができたと感じる。他者との関りやチームとの連携は今後も不可欠な要素となるため、3年間の経験を今後の人生に生かしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">阪上 優志(コーディネーションチーム)</p>	<p>なんティアでは3年間を通して様々な経験ができた。特に代表を任せてもらえたことは、かけがえのない経験となった。1年間代表を務めることができたのは先生やメンバーのみんな、職員さんの支えがあったからだと思う。</p> <p style="text-align: right;">橋本 育明(企画チーム)</p>
<p>3年間なんティアでの活動をやり遂げることができたのは、周囲の人の理解やサポート、いただいた温かい言葉の1つ1つがあったからだ。そこに対する感謝の気持ちを忘れずに、これからも自分なりの挑戦を続けていきたい。</p> <p style="text-align: right;">御手洗 由璃菜(コーディネーションチーム)</p>	<p>認知度調査では、大勢の学生の前で話すという貴重な経験ができた。また、分析の重要性や難しさを実感した。今回の調査結果を踏まえて、ボランティアに関心のある学生に向けた広報活動を引き続き行いたい。</p> <p style="text-align: right;">黒田 千冬(広報チーム)</p>
<p>ボランティア情報展示・相談会では学生の声をもとに、より魅力的な企画づくりに挑戦したい。</p> <p style="text-align: right;">大橋 夏芽(コーディネーションチーム)</p>	<p>認知度調査を通して、質問検討から実施までを経験し、事前準備や分析の重要性を学んだ。今回の結果を踏まえ、今後より多くの甲南大生になんティアの存在の認知だけでなく、活動の雰囲気や魅力が伝わる広報に取り組みたい。</p> <p style="text-align: right;">高原 優梨(広報チーム)</p>
<p>今年度は、積極的に意見を述べて、話し合いに参加することができたと感じる。企画でも、資料作成や発表のスキルを身に着けることができた。次年度は、得られた学びを生かし、企画をさらに良いものにしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">山野 颯葵(企画チーム)</p>	<p>今年度は、先輩・同期・後輩との交流を経て、より充実した活動を実施することができたと感じている。また、今後も、ボランティアに関する活動を継続して実施していきたいとも感じた。</p> <p style="text-align: right;">中川 あかり(企画チーム)</p>

<p>昨年度と比べ、企画段階から活動に意欲的に取り組むことができた。チーム内の話し合いも学年関係なく気軽に意見を交換できる環境であった。なんティア全体でも同じ環境を作ることができるよう次年度も励みたい。</p> <p style="text-align: right;">加納 李稔(企画チーム)</p>	<p>今年度はチーム活動に加え、災害ボランティア活動調査があり、他チーム他学年との交流ができた。チーム活動や他大学視察でも昨年よりも深く関わることができ、学びを得られた。次年度にも生かしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">野田 彩菜(コーディネーションチーム)</p>
<p>今年度は認知度調査と震災プロジェクトが印象に残っている。計画から分析までの一連の作業の難しさを感じた。また、スライド作りやメールでのやり取りを通して、パソコンスキルを身につけることができた。</p> <p style="text-align: right;">今村 七海(広報チーム)</p>	<p>今年度に特に印象に残った活動は、清掃活動だ。Forms でアンケートを作る作業などで、パソコンの操作ができた。また、活動内で長時間参加者の方と交流でき、自身のコーディネート力を向上させることができた。</p> <p style="text-align: right;">中西 珠希(コーディネーションチーム)</p>
<p>今年度の活動では、ピア相談ができるよう自分自身がボランティア活動に取り組んだ。活動の中でメールでのやりとりがあったのだが、先輩方の助けも受けながら取り組むことができた。次年度は積極的に活動したい。</p> <p style="text-align: right;">中川 恭佑(コーディネーションチーム)</p>	<p>他のチーム開催の活動に参加者として参加することで、普段関わらないメンバーと交流ができた。また、今年度の活動を通して、スライドを作成する中でパソコンスキルを身につけられた。次年度にも生かしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">飯島 真優子(企画チーム)</p>
<p>今年度は清掃活動の事前説明会で用いたスライドやピア相談カレンダーの作成に取り組んだ。また、清掃活動の事前説明会では前に立って発表する機会があり、自身の発表能力を高めることができた。</p> <p style="text-align: right;">今井 修三(コーディネーションチーム)</p>	<p>今年度の活動では認知度調査が主な活動だった。多くの人の前で発表する機会や、アンケート結果の分析など普段ではなかなか体験できないようなことに取り組めたので良い経験となった。</p> <p style="text-align: right;">小川 優(広報チーム)</p>
<p>今年度の活動では企画チームでの活動通して説明会のスライドを作成することや、災害ボランティア活動調査でチームを超えて交流することができたのでとても良い経験になった。次年度にも生かしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">竹村 希美(企画チーム)</p>	<p>今年度の活動では、認知度調査でデータの分析やメールを送る際のマナーなどを学んだ。また、チームで活動する中で、他者との協働力を身につけることができた。これからの生活にもいかしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">水原 歩夢(広報チーム)</p>

#### (4)2025年度メンバー一覧

※在籍者数:28名(2025年12月末現在)(敬称略)

##### <幹部メンバー>

- ・代表:橋本 育明(法学部3年生)
- ・副代表:御手洗 由璃菜(法学部3年生)
- ・総務(データ管理・会計):岡野 将太(経済学部3年生)【通年休み】
- ・渉外:坂本 蒼依(法学部3年生)、山野 颯葵(文学部歴史文化学科2年生)
- ・広報チームリーダー:坂本 蒼依(法学部3年生)
- ・同上サブリーダー:黒田 千冬(文学部社会学科2年生)
- ・コーディネーションチームリーダー:阪上 優志(法学部3年生)
- ・同上サブリーダー:大橋 夏芽(文学部社会学科2年生)
- ・企画チームリーダー:小林 英誠(経済学部3年生)
- ・同上サブリーダー:加納 李稔(経済学部2年生)

##### <全体プロジェクト>

- ◆阪神・淡路大震災ボランティア活動インタビュー調査プロジェクト
- ・リーダー:橋本 育明(法学部3年生)
- ・サブリーダー:御手洗 由璃菜(法学部3年生)
- ・メンバー:上間 拓人(文学部社会学科4年生)、1~3年生全員

##### <チーム>

###### ◆コーディネーションチーム

- ・リーダー:阪上 優志(法学部3年生)
- ・サブリーダー:大橋 夏芽(文学部社会学科2年生)
- ・メンバー:藤本 心菜(法学部4年生)、酒井 菜緒(経営学部4年生)  
御手洗 由璃菜(法学部3年生)  
永茂 いぶき(グローバル教養学環 STAGE 2年生)【通年休み】  
野田 彩菜(経済学部2年生)、中西 珠希(文学部社会学科1年生)  
中川 恭佑(経済学部1年生)、今井 修三(経済学部1年生)

###### ◆広報チーム

- ・リーダー:坂本 蒼依(法学部3年生)
- ・サブリーダー:黒田 千冬(文学部社会学科2年生)
- ・メンバー:森川 遥菜(文学部社会学科4年生)、岡野 将太(経済学部3年生)【通年休み】  
玉岡 穂ノ佳(グローバル教養学環 STAGE 2年生)【後期休み】  
高原 優梨(文学部社会学科2年生)、今村 七海(文学部英語英米文学科3年生)  
小川 優(経済学部1年生)、水原 歩夢(経営学部1年生)

#### ◆企画チーム

- ・リーダー：小林 英誠（経済学部 3 年生）
- ・サブリーダー：加納 李稔（経済学部 2 年生）
- ・メンバー：上間 拓人（文学部社会学科 4 年生）、森川 遥菜（文学部社会学科 4 年生）  
弘中 美緒（経済学部 4 年生）、橋本 育明（法学部 3 年生）  
山野 颯葵（文学部歴史文化学 2 年生）、中川 あかり（経済学部 2 年生）  
飯島 真優子（経済学部 1 年生）、竹村 希美（経営学部 1 年生）

#### (5)教員のコメント

##### 災害の記憶の継承への挑戦

活動 5 年目の大きな挑戦は、全員で一つのプロジェクトをやり遂げることでした。それは、阪神・淡路大震災から 30 年が経過した今年度、震災当時にボランティア活動に取り組んだ甲南大学の OB・OG や関係者を対象にインタビュー調査に取り組むことでした。甚大な被害が発生し、多数の甲南大生がボランティア活動に従事した本学においても、災害の記憶の継承は大きな課題でした。そこで、メンバー全員で当時ボランティア活動に従事した人々に当時の活動の記憶についてお話を伺い、当時の経験をどう認識されているのか、当時の経験がその人の人生にどのような影響を与えたと認識しているのか等を調べることにしました。代表、副代表がメンバー全員でプロジェクトに取り組むことにこだわったのは、結成わずか 5 年目のなんティアにも、すでにチームを越えた活動が難しいなど縦割りの弊害が見られたからです。1 年生の時から積極的になんティアの活動に参加できる機会をつくることを意識しました。



お話を伺ってみると、当時、無数の甲南大生や甲南 OB・OG 等は「何かしなければ」という強い思いに突き動かされて自発的に活動に取り組んだこと、震災前からボランティア活動や何らかの社会活動にかかわっていた人が多かったことが分かりました。大学自身が甚大な被害を被っていたにもかかわらず、一時期は千人を超える避難者を大学に受け入れ、大学生が中心になって懸命に被災者を支えたこと、一方で、ボランティアの活動を支える環境はほぼ皆無で、専門的サポートが不足していたために様々な活動上の困難に直面したことも見えてきました。平時の活動の経験があるからこそ、非常時にも人の役に立てることを、メンバーは痛感したようでした。

他にも、清掃活動のボランティアプログラムを新たに開発したり、災害支援NPOと連携してボランティアプログラムを実施したりしました。また、隔年で実施している甲南大学生へのボランティア活動の関心等を調べる調査では、地域連携センターおよび学生コーディネーターの認知度も飛躍的に高くなっていることが分かりました。

大きな成果を見出せた 1 年でしたが、活動量が増えたために、メンバーは公私のバランスをとるのに苦労したようです。次年度は、引き続き挑戦を続けながらも、持続可能な体制づくりにも心配りができるようにサポートしてまいります。本年度も学生コーディネーターの学びのために、様々なかたちでご支援を賜りました皆様に、厚く御礼を申し上げます。

全学共通教育センター 特任准教授 岡村こず恵

## <資料編>

### 1. 阪神・淡路大震災ボランティア活動調査プロジェクト(概要)

#### 【はじめに】

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、多くの命が失われ、甲南学園も人的・物的に甚大な被害を受けた。一方で復旧・復興の過程では多数のボランティアが活躍し、1995年は「ボランティア元年」とも呼ばれるようになった。震災から30年を迎えるにあたり、災害ボランティアの視点から当時を学び直し、今後の活動に生かすことを目的に本調査を実施した。※概要は6頁参照。

#### 【本学の被害および避難者支援の概要】

震災により約半数の校舎が使用不能となり、7号館では火災が発生した。また図書館では書架倒壊により大きな損害が生じた。避難者支援として、1995年1月から4月まで学内施設に最大約1,200名が避難し、学生会館や体育館が避難所として活用された。大学教職員と学生ボランティアが中心となり、物資配給や水の運搬、高齢者・子どもの支援などを行った。

#### 【調査目的】

第一に、阪神・淡路大震災でのボランティア活動者は、当時の活動の経験を、どのように認識しているのか【A】、また、活動体験が自身にどのような影響を与えたと認識しているのか【B】を明らかにすることで、今後の災害時における本学のボランティア活動推進や地域連携の在り方を検討する際の参考情報とする。

第二に、教員と大学生による本調査活動を通じて、災害の記憶の継承に寄与する。

#### 【調査方法】

調査は岡村こず恵特任准教授と学生コーディネーター「なんティア」有志22名によって行われた。文献調査、「人と防災未来センター」訪問、インタビュー調査を実施した。インタビューは半構造化形式で行い、震災時のボランティア経験者6名および2つの支援団体関係者から話を聞き、逐語化したデータをもとに分析した。

#### 【調査結果】

##### (A) 当時の活動体験をどう認識しているか

###### <ボランティア活動のきっかけ>

- 対象者6人中5人が、震災以前から地域活動や公益活動に参加していた
- 大学内でのサークル・団体活動など、平時からの学生同士のつながりが存在した
- 発災後はそのネットワークを通じて支援活動に円滑に参加していた

###### <活動を通じた学び・認識>

- 支援物資を避難所内だけでなく他避難所へ分配する方針を学んだ
- 公平性や支援の視点を体験的に理解する機会となった
- ボランティアが仕事以外での協力・交流の場となった

- 多様な人との関係形成が活動の価値として認識されている
- 多くの交流経験が「財産」として認識されている

#### <不安や課題として認識された点>

- 指示システムの不足により現場が混乱していた
- 人材不足・専門性不足による負担の大きさ
- 被災しながら支援に従事する学生もいた
- ボランティア自身の心身の健康管理の必要性を実感した

#### (B) 活動体験が自身に与えた影響

- 災害時の経験が進路選択に結びついた例がある
- 社会的使命を持ち続ける姿勢が形成された
- 震災後もボランティア活動を継続している
- NPO 設立など新たな社会貢献を行う
- 防災を目的とした地域人材育成活動を展開する
- 平時からの防災キャンプや自治体活動への参加する



【資 図 1】「阪神・淡路大震災30年シンポジウム」  
(2025年11月29日撮影)

#### 【考察】

##### ◎ (A) ボランティア活動者は、当時の活動体験をどう認識しているか

- 活動体験は総合的に肯定的に捉えられている
- 他者交流や自己理解の深化を通じて学びが得られた
- 平時からの地域・大学内ネットワークが参加を促進した
- 一方で専門性不足や人材不足が課題として存在した  
➡ 専門的支援体制(スーパーバイザー等)の必要性

##### (B) 活動体験の影響について

- 災害ボランティア経験はその後の人生に長期的影響を与えている
- キャリア形成や社会公益活動への継続的関与につながった
- 防災を目的とした地域活動など平時の取り組みにも広がっている

#### 【まとめ】

将来、甲南大学が避難所となる可能性を踏まえ、避難所運営において重要となるボランティアを受け入れる体制づくりが求められる。ボランティア活動は大学生の学びや成長につながるとともに、地域再生の担い手としての役割も期待されている。今後は平生 鈇三郎先生の「常二備へヨ」の精神のもと、大学と地域が連携し、防災力の向上に取り組む必要がある。

#### 【調査に取り組んで感じたこと】

今回の調査を通じて、災害時のボランティア経験は人生に大きな影響を与える価値ある活動であると分かった。平時から地域とつながり、継続的に活動することが災害時にも生きるという「フェーズフリー」の重要性が再認識された。今後も学生と地域をつなぐ架け橋として活動を続けていきたい。

(担当:橋本)

## 2.「甲南大学のボランティア活動についての意識、および地域連携センターの認知度調査」結果(一部抜粋)

### (1)調査の目的

甲南大生のボランティア活動の参加状況や、地域連携センターおよび学生コーディネーターによる活動の甲南大生に対する認知度等に関する基礎データを収集し、今後の甲南大学でのボランティア活動推進のための課題を明らかにする。

### (2)調査対象・調査方法

#### 1) 2025年度調査

- ・有効回答数: 1,160
- ・調査方法: Microsoft Forms を使ったインターネットによるアンケート調査。授業中に調査協力を求めた。
- ・調査対象: 「社会調査」、「市民社会と NGO」、「演習 I b」、「ベーシックキャリアデザイン」、「刑事訴訟法 I」、「生物学入門」、「地域とメディア」、「まちづくりと行政」、「共通基礎演習」、「公共社会学」、「リサーチ・イントロダクション」、「公共政策」、「プロジェクト科目」、「基礎演習」、「専門演習 I」、「専門演習 II」、「地域連携入門」の履修者 1,160 名
- ・調査時期: 2025 年 9 月 22 日～10 月 13 日

#### (参考)

#### ※2023 年度調査

- ・配布数: 549、有効回答数: 372
- ・調査方法: Microsoft Forms を使ったインターネットによるアンケート調査。授業中に調査協力を求めた。
- ・調査対象: 「ベーシックキャリアデザイン」、「共通基礎演習」、「マーケティングと CSR」の履修者 549 名
- ・調査時期: 2023 年 9 月 25 日～10 月 13 日

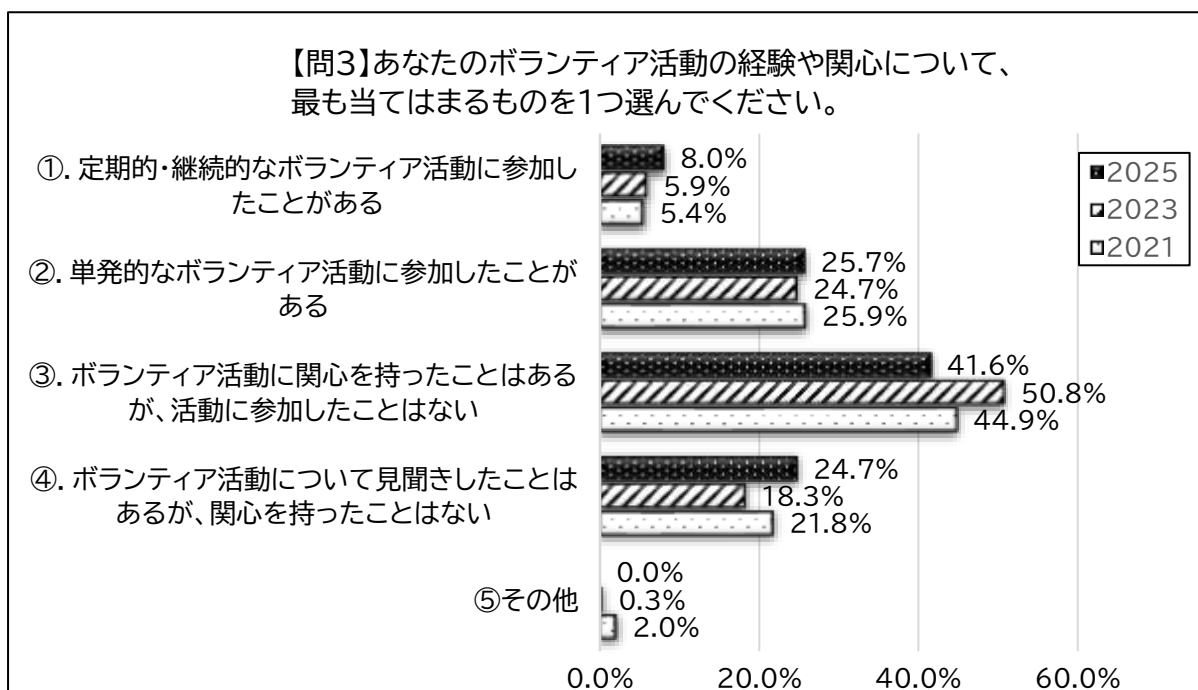
#### ※2021 年度調査

- ・配布数: 273、有効回答数: 147
- ・調査方法: Microsoft Forms を使ったインターネットによるアンケート調査。授業中に調査協力を求めた。
- ・調査対象: 「ベーシックキャリアデザイン」、「共通基礎演習」、「産業と経済2」の履修者 273 名
- ・調査時期: 2021 年 12 月 2 日～10 日

### (3)調査の結果

#### 1)ボランティア活動の経験や関心の有無

甲南大生は、定期的・継続的なボランティア活動に参加している人が 8.0%で、2023 年度より2.1%増加している。これは、定期的・継続的に活動する人が増加していることを示し、徐々に活動が定着していることがうかがわれる。一方で、「ボランティア活動に関心をもったことはあるが、活動に参加したことはない」が9.2%減少し、また「ボランティア活動について見聞きしたことはあるが、関心を持ったことはない」が6.4%増加している。これは、ボランティア活動への関心が減少していることを示している。今後、ボランティア活動への関心が二極化する可能性も視野に入れながら、注視する必要がある。

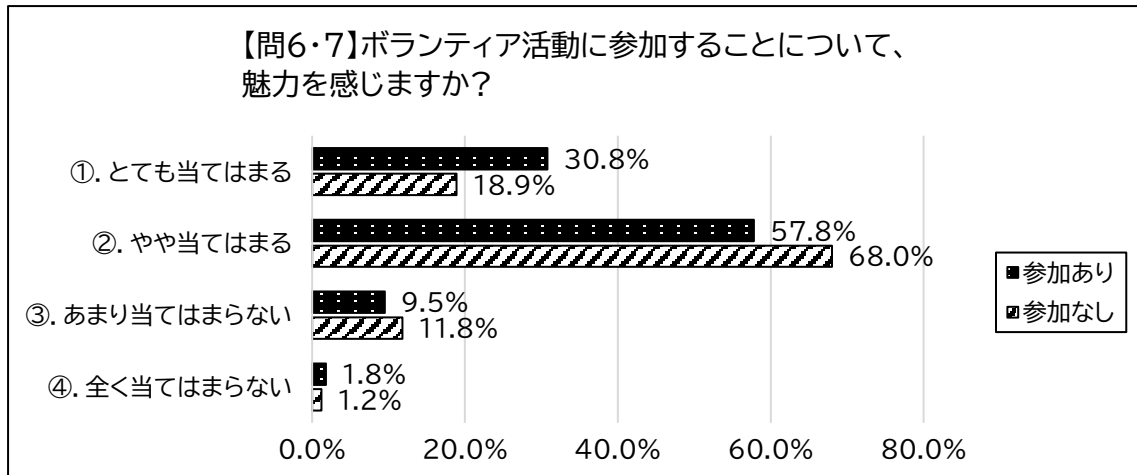


【資 図 2】 ボランティア活動に対する経験や関心

有効回答数 1,160 (2023 年度:372, 2021 年度:147)

#### 2)ボランティア活動の参加経験の有無別における活動への魅力の感じ方

ボランティア活動の経験の有無とボランティア活動の魅力の感じ方の関係についてみると、「とても当てはまる」と回答した割合は、「参加あり」が 30.8%、「参加なし」が 18.9%であり、参加経験者の方が高い。一方で、「やや当てはまる」は「参加あり」が 57.8%、「参加なし」が 68.0%、「あまり当てはまらない」は「参加あり」が 9.5%、「参加なし」が 11.9%と、いずれも参加経験がないものが高くなっている。これらのことから、ボランティア活動に参加した経験のある学生ほど、活動に魅力を強く感じる傾向にあることが読み取れる。実際の参加経験が、活動への前向きな評価につながっていると考えられる。

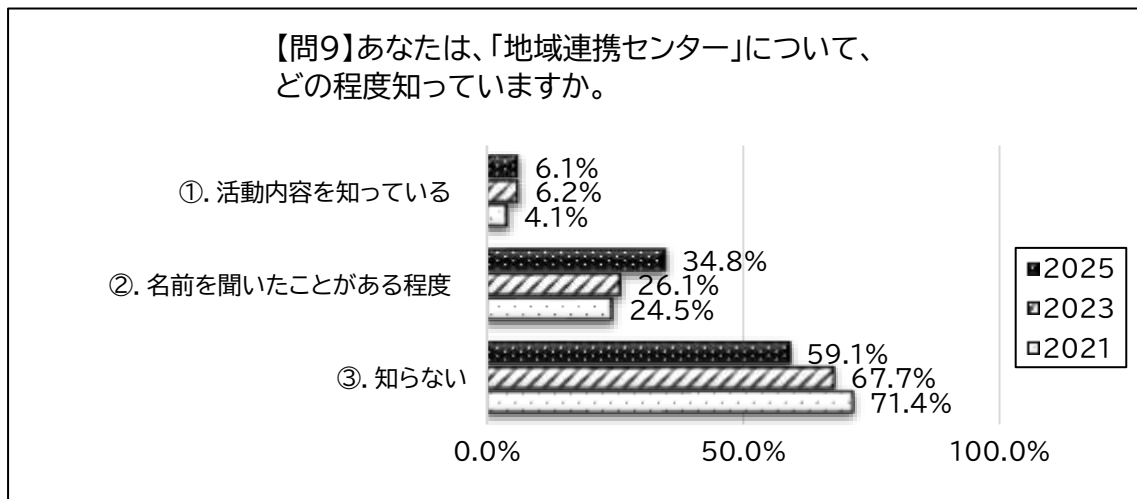


【資 図 3】ボランティア活動の経験の有無別におけるボランティア活動の魅力の感じ方  
有効回答 871

※「定期的・継続的なボランティア活動に参加したことがある」または「単発的なボランティア活動に参加したことがある」と回答した人を「参加あり」(計 389 人)、「ボランティア活動に関心を持ったことはあるが、活動に参加したことはない」と回答した人を「参加なし」(482 人)としてそれぞれたずねた。

### 3)甲南大学地域連携センターの認知度

甲南大学地域連携センターについて「知らない」と回答した割合が最も多く、2025 年度では 59.1%となっているものの、2021 年度の 71.4%や 2023 年度の 67.7%からは減少している。また、「名前を聞いたことがある程度」は 34.8%と、8.7%増加した。これは、地域連携センターの存在自体は徐々に認知されつつあることを示している。しかし、「活動内容を知っている」との回答は 6.1%と依然低い水準である。このことから、センターの認知は、一定程度広がっているものの、活動内容が理解される段階には至っていないことがうかがえる。



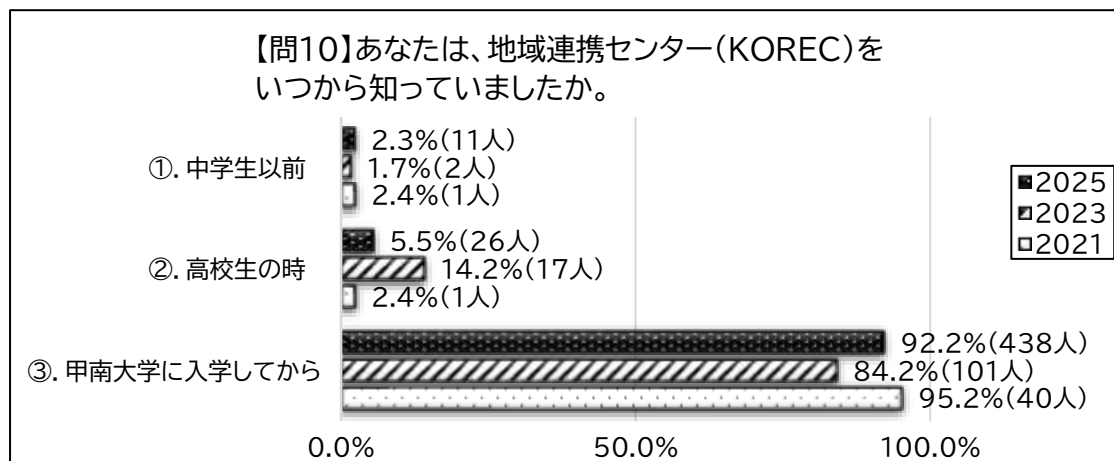
【資 図 4】地域連携センターの認知度

有効回答数 1,160 (2023 年度:372,2021 年度:147)

※次の説明のあとと質問した。「甲南大学地域連携センター(KOREC;コレック)では、甲南大生が参加できるボランティア活動を紹介、自治体や企業、地域で活動する団体等と連携して地域貢献活動に取り組んでいます。」

#### 4)甲南大学地域連携センターを知った時期

地域連携センターを知った時期は、「甲南大学に入学してから」が 92.2%を占めている。これは、在学中に認知が進んでいることを示している。特筆すべき点としては、「高校生の時」の割合は 5.5%にとどまり、2023 年度から減少したものの、大学入学以前に地域連携センターを把握している学生が一定数存在することが確認できる。主に高校生を対象とした媒体の一つに「甲南 Ch.(チャンネル)」というウェブサイトがあり、なんティアは積極的に情報を発信している。



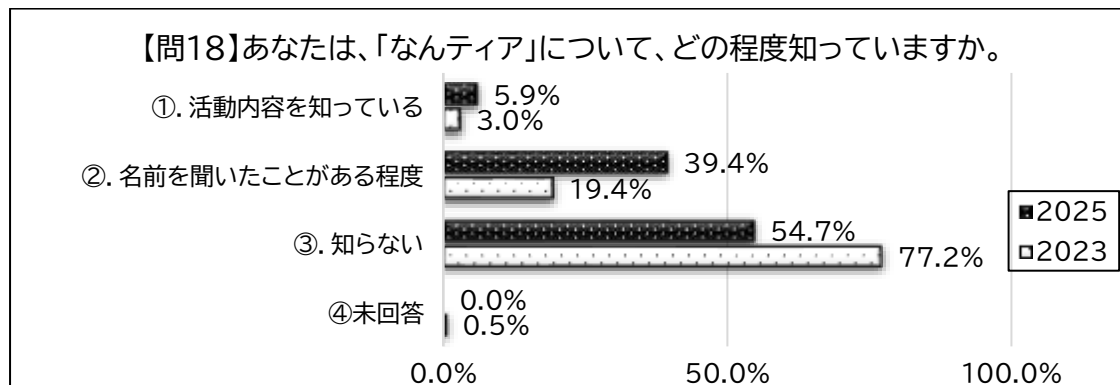
【資 図 5】 地域連携センターを知った時期

有効回答数 475 (2023 年度: 372, 2021 年度:147)

※地域連携センターの「活動内容を知っている」または「名前を聞いたことがある程度」と回答した計 475 人にたずねた。また、2025 年度アンケートにて、「ボランティア論という講義で」は、③に計上した。

#### 5)なんティアの認知度

「活動内容を知っている」と回答した割合は 5.9%であり、前回より 2.9%増加した。また、「名前を聞いたことがある程度」は 39.4%と、2023 年度より 20.0%と大幅に増加した。以上より、なんティアに対する認知は全体として向上したことが分かる。認知が大きく向上した理由は、2024 年度から活動時に公式ユニフォームを着用したことにより、活動の可視性が高まった可能性が考えられる。



【資 図 6】 なんティアの認知度

有効回答数 1,160 (2023 年度:372)

※次の説明をしてから質問した。「KOREC 学生コーディネーター「なんティア」は、地域連携センターと連携して、甲南大生のボランティア活動の推進のための活動に取り組む学生ボランティアグループです。」

### 3. これまでの歩み

年度	代表	副代表	主な取り組み	チーム・プロジェクト	人数
2021	中岡真唯	—	<b>地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」発足。</b> 感染症拡大のため、前期はオンラインを中心に活動し、後期から対面活動が実現した。学生ピア相談活動、2021年度ボランティア活動に関するアンケート調査、LINEによる情報発信、アイシティecoプロジェクト、岡本商店街お店紹介冊子、マッチングプロジェクト、龍谷大学の視察など。	①コーディネーション、②地域連携、③広報、④たまごっち(リサイクル活動)	21
2022	佐々木千菜津	日比野令旺	出張型学生ピア相談イベント、こども食堂でのボランティアプログラム開発、LINEを終了しインスタグラム「nangram(なんグラム)」を開設、なんティアマーク作成、ボランティアガイド、関西学院大学、佛教大学視察等。	①コーディネーション、②企画、③広報、④地域連携	20
2023	松居ももか	阪本萌衣	ボランティア情報展示・相談会の4月開催、2023年度ボランティア活動に関するアンケート調査、学生ピア相談活動等の動画制作、学生コーディネーターの自己紹介シート作成、児童館でのボランティアプログラム開発、立命館大学の視察、KONAN Students Forum (KSF)の参加など。	①コーディネーション、②地域連携、③広報、④アイシティecoプロジェクト	24
2024	森川遥菜	藤本心菜	ユニフォーム・のぼり旗の制作(KONAN未来サポーターズ募金の支援を受ける)、能登半島地震における災害ボランティア研修、イベント型学生ピア相談会、研修内容を充実した里山保全のボランティアプログラム実施、関西大学の視察など。運営面では新たに育成システムを導入した。	①コーディネーション、②企画、③広報、④ボランティアガイドプロジェクト、⑤アイシティecoプロジェクト	24
2025	橋本育明	御手洗由璃菜	阪神・淡路大震災30年を契機とした災害ボランティア調査の実施。2025年度ボランティア活動に関するアンケート調査、防災および清掃のボランティアプログラムの開発、神戸学院大学の視察など。	①コーディネーション、②企画、③広報(アイシティecoプロジェクト含む)	28



甲南大学 社会連携機構 地域連携センター  
学生コーディネーター「なんティア」  
2025年度 活動報告書

制作：地域連携センター 学生コーディネーター「なんティア」  
編集・発行：甲南大学 社会連携機構 地域連携センター  
(電話)078-435-2276  
発行日 2026年3月31日



